

貝類増殖場造成事業の効果調査結果について

漁場環境研究部 漁場改善グループ

冬期の波浪によるアサリ資源の減耗対策として、浅海域のアサリ漁場に碎石を投入し、地盤を安定させる貝類増殖場造成事業が実施されています。当グループでは、西尾市における造成事業の効果把握するため、2025年5月13日に一色地区（2022年造成区：碎石5～13mm、2024年造成区：碎石2.5～5mm）で調査を実施しました。調査は貝類増殖場の区域内に2点ずつ、計4点（造成区）と、1点（対照区）の調査点を設定し、各調査点の殻長1mm以上のアサリ及び1mm以下のアサリ着底稚貝の生息密度を調べました。

初めにアサリの生息密度を図1に示しました。2022年造成区では、他の調査点に比べ、520個体/m²と高い密度のアサリが確認されました。これは、2023年及び2024年に放流したアサリ稚貝の密度が碎石の効果により維持されたためと考えられます。なお、2024年造成区は、増殖場の完成が10月末となったため、稚貝の放流は行われておらず、対照区に近い値となりました。

次に、アサリ着底稚貝の生息密度を図2に示しました。いずれの調査点でもアサリ着底稚貝が確認されましたが、特に、2024年造成区では5,097個体/m²が確認され、他の調査点に比べて高密度に確認されました。

今後も秋期と冬期に調査を予定しており、投入された碎石サイズにも着目し、増殖場の造成によるアサリ稚貝着底促進の効果や生残率向上の効果を引き続き検証していきます。

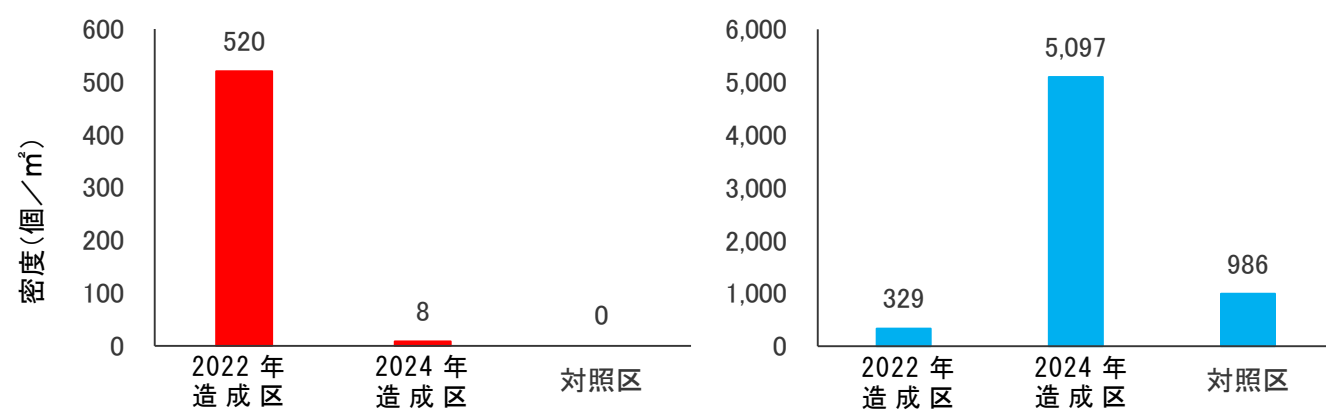


図1 殻長1mm以上のアサリの生息密度

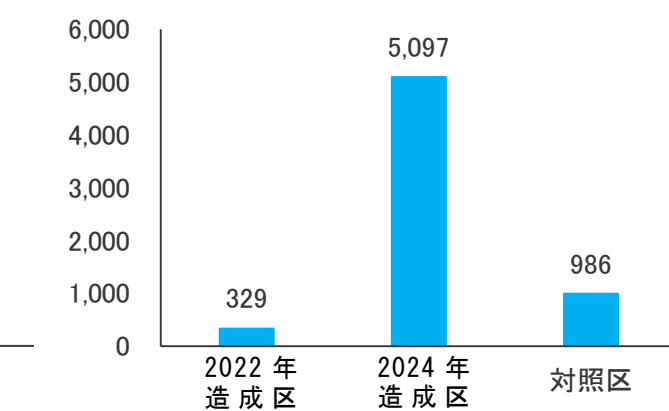


図2 殻長1mm未満のアサリ着底稚貝の生息密度

病気に強く、美しいリュウキンを作出しました

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

キンギョのヘルペスウイルス性造血器壊死症（GFHN）は、発症すると飼育しているキンギョが全滅することもある非常に深刻な病気で、本県のキンギョ生産に大きな影響を及ぼしています。

当グループでは、この病気に対する耐性のある系統の作出を行っており、令和5年には耐病性のオランダシギシガシラを養殖業者に試験配付して系統の評価を行いました（水試ニュース569号）。これに続く2品種目として耐病性系統のリュウキンを昨年度に作出しました。このリュウキンをGFHNウイルスに人為的に感染させた試験では生残率が90%以上となり、非常に高い耐病性が確認されました。

作出したリュウキンは体高が高く、どっしりとした腹部は左右均等に丸みを帯び、尾びれは左右に広がる四つ尾でリュウキンらしい美しい特徴がよく現れています（図3）。

今後、この耐病性リュウキンを養殖業者に試験配付し、病気に強く、見た目にも美しいキンギョの評価を得たいと考えています。



図3 耐病性リュウキンの上から（左）と横から（右）見た写真

【中学生限定】海とお魚漁業体験教室の受講生募集！

企画情報部 企画普及グループ

漁業体験を通して、海やお魚について学ぶ教室を開催します。

のり漉きやアサリの漁獲などの体験に加え、魚の耳石とりやプランクトンの観察などのプログラムをご用意しています。

県内の中学生の皆さんのご参加をお待ちしています！

- 1 日時：令和7年8月8日（金）10時～15時30分
- 2 場所：愛知県水産試験場（愛知県蒲郡市三谷町若三谷97）
- 3 内容及び参加申し込み方法：右の二次元バーコードをご覧ください。

